

重点目標 「互いに認め、高め合い、共によりよく生きようとする生徒の育成」

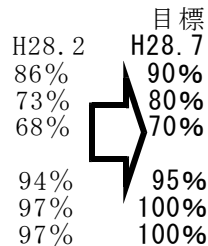
具体的な達成目標

○意欲をもって学習に取り組む生徒

- ・授業で学習する内容がよく分かる(できる)。(生徒：80%以上) 86%
- ・自分の考えをもち他者に伝えることができる。(生徒：80%以上) 73%
- ・毎日、継続的に家庭学習に取り組む。(生徒：80%以上) 68%

○ともに生活の向上をめざして実践する生徒

- ・自ら進んで明るいあいさつをすることができる。(生徒：90%以上) 94%
- ・気持ちを込めて、大きな声で歌うことができる。(生徒：90%以上) 97%
- ・清掃に主体的に取り組むことができる。(生徒：90%以上) 97%



前年度

前年度の学校評価結果から、「すべての生徒が授業での学習内容がよく分かる(できる)」ように研修を進めているが、特別支援教育の視点を加味した授業づくりなど、今後さらに教職員で研修を深め、工夫・改善すべき課題である。

- ・「自分の考えをもち他者に伝えることができる」という項目について、中間評価時の数値よりも向上していたが、校内研修の在り方を見直し、継続して取り組むべき課題である。
- ・「家庭学習」は「習慣化」に向けて学校と家庭が課題を共有し、連携の具体として、「ノーメディア・チャレンジウィーク」を継続し、さらに具体的で実効性のある取組を行いたい。
- ・「あいさつ」、「合唱」、「清掃」の項目は、更なる生徒の主体性の高まりを目指していきたい。そしてこれらの活動を通して、生徒に自己有用感や達成感を実感させるとともに、本校が推進する人権教育を核に、温かい人間関係を基盤とする生徒集団づくりを目指したい。

行動Ⅰ

意欲をもって学習に取り組む生徒の育成

- ① 生徒の実態をもとに、「分かった、できた」と実感できるように授業を工夫する。
- ② 校内研修で指導のねらいを明確にした授業展開や評価について研修し、実践する。
- ③ 授業や諸活動の中で考えを発表する機会を設けるなど、互いに認め合ったり考えを深め合ったりできる場を工夫する。
- ④ 保護者と協力して家庭学習の習慣化を図る。

ともに生活の向上をめざして実践する生徒の育成

- ① 道徳や学級会、生徒会活動を通して、あいさつの意義や好ましい人間関係づくりについて考えさせ、自分から明るいあいさつができるようにする。
- ② 行事や集会等の合唱では、式や集会等の意義を理解させた上で練習に臨ませ、聞く人を感動させる合唱になるよう指導する。
- ③ 清掃の意義を理解させ、主体的に清掃活動に取り組むことができるようにする。

中間評価

中間評価【学校評価(教員、保護者、生徒)、生徒の自己評価】(7月)

- ・学校評価から該当する評価項目を選び評価する。
- ・教師と生徒、保護者の評価結果を比較し、目標値の変更や具体的な改善策等を検討する。

学校評議員会、たより、学校HPにて公表

行動Ⅱ

意欲をもって学習に取り組む生徒の育成

- ①～④を継続
- ⑤ 人権スピーチの原稿づくりと発表を③と関連づけ、書いた文章を教師が評価するだけでなく、生徒自らが評価したり、生徒相互で評価したりさせる。(自己評価表、相互評価表の検討)

ともに生活の向上をめざして実践する生徒の育成

- ①～③を継続

年度末評価

【評価結果の分析Ⅰ】

年度末評価・・・教職員、生徒、保護者対象(2月)

- ・学校評価から該当する評価項目を選び、それぞれのアクションについて自己評価を実施する。
- ・評価結果を学年だより等で公開するとともに、学校評議員に報告し、意見を求める。

次年度

- ・年度末評価結果をもとに成果と課題を明確にする。
- ・生徒の実態を踏まえ、次年度の目指す生徒像を共通理解し、重点目標・行動計画を作成する。